

新田開発

慶長5年(1600年)関ヶ原の戦いに敗れた毛利氏は、中国9ヶ国112万石から防長2国30万石に減封された。藩では財政が窮乏し、財政立て直しのため瀬戸内の開作事業、三白政策等に取り組み、藩内に撫育局を設け財政の改善に務めた。後に新田面積は1000町歩、石高に直すと約1万2千石に及び、この財源は明治維新の原動力となった。

ふるさと原 史跡マップ

マップを片手に
歩いてみよう!

再発見!
私たちのまち

散歩コース

① 北コース

原ふれあいセンター(原尋常小学校跡)→上梅田川親水公園→須恵小学校跡→岡田屋百手祭祭地→見返り地蔵→吉岡岡導墓、尾崎先生墓→水神社→尾崎塾、西村塾跡→原ふれあいセンター(5km)

② 南コース

原ふれあいセンター(原尋常小学校跡)→西宝寺→石炭会所跡→旧妻崎漁港、魚市場跡→梅田川妻崎樋門跡→庚申塚→梅田川防潮水門、梅田川排水機場→御撫育幹線水路最終点→小島樋門→恵比須神社→開作四挺唐樋跡→中川排水機場→一錢渡し場跡→妻崎神社お旅所→蟹塚→妻崎開作樋門跡→原ふれあいセンター(6km)

原
HARA

18 西宝寺(妻崎)

山号を和光山といい、浄土真宗西本願寺派。開基正誓は文明年中の人物で、俗名を縄田八左衛門といった。文明7年(1475年)当寺を建立し、真宗の布教に努めた

19 南部懇話会之碑(第一原)

厚南村南部の政治的発言力を高めるとともに、地区の発展を目的に地区の有志により結成された団体。明治34年の原尋常小学校(厚南小学校分教場)の設立や、昭和18年4月の原国民学校の厚南小学校からの独立開校等に寄与した。この功績を称えるため、記念碑が原小学校玄関前に建てられている。

20 馬渡川樋門(第一原)

現在の西沖干拓ができるまでは、直接海に面しており、海水の流入を防ぐために樋門が作られた。

21 波多野開作樋門(第一原)

明治元年(1868年)波多野開作の新田開発によって作られた防潮樋門。

22 前開作樋門(第一原)

弘化4年(1847年)、30町歩が新田開発された時の防潮樋門、平成17年度改修工事。

23 旧妻崎漁港、魚市場跡(妻崎)

妻崎浦と呼ばれ漁船が入り出したり、魚市場があった。昭和初期までは毎年12月末には農具、生活用品等の商品市が開かれ活気を呈していた。



猿田御大神

24 梅田川妻崎樋門跡(妻崎)

梅田川下流に新梅田川水門が作られるまで使用されていた樋門で、昭和54年の新水門完成と同時に廃止された。

25 梅田川防潮水門と排水機場(第一原)

梅田川上流域の急激な開発によって、梅田川下流域が集中豪雨時など急激な水害が発生するため、昭和54年7月、強制排水機場と防潮水門が新設された。

26 小島樋門(新開作)

安政6年(1859年)妻崎新開作130町歩が新田開発された時に作られた防潮樋門。昭和17年8月の台風で崩壊し、昭和34年、56年の大改修を経て現在に至る。

27 恵比須神社(新開作東、小島)

妻崎新開作の新田開発によって陸続きとなった竹の小島に祀られている。万延2年(1861年)に建立されたこともあり、境内にある手水鉢には源氏、平氏、藤原氏の銘がある。

28 開作四挺唐樋跡(新開作東)

安政6年(1859年)の妻崎新開作の開作工事の時作られた防潮樋門。四挺唐樋が2基あったが、昭和17年の台風で崩壊し、東側の唐樋の石積みが残った。

29 中川排水機場(新開作東)

昭和50年以降厚南地域の住宅浸水事故を防止するために、昭和54年中川改修工事が着工され、中川の拡幅工事に併行して、強制排水機場が新設された。

30 妻崎開作樋門跡(新開作東)

妻崎新開作の開作工事にもとない、それまで妻崎開作にあった樋門が廃止され、小規模の二挺樋として残され、その後改修された。

31 御撫育幹線水路最終点(新開作西)

厚南平野の広い開作地のために江戸時代に作られた灌漑用水路。荻撫育局の事業として実施されたため、御撫育用水と呼ばれている。厚東の五田ヶ瀬井堰から取水し、中野開作、妻崎開作などを潤してきた用水路の最終端。



■制作・発行 原郷土史研究会
平成19年(2007年)3月